

田村のつぶやき 第19号

2024.3.11 発行

文責：島根県立江津高等学校長 田村康雄

天災は忘れた頃にやってくる

「天災は忘れた頃にやってくる」—— これは、科学者で随筆家の寺田寅彦(1878~1935)の言葉とされています。寅彦は熊本の第五高等学校に入学し、そこで英語教師だった夏目漱石と出会い、大きな影響を受けました。漱石も自身の作品の中で寅彦をモデルとした人物を登場させています。寅彦は、自身の随筆の中で防災について記述し、天災による被害を忘れることへの危険性を訴えていました。しかし、寅彦の随筆の中には、「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉そのものはありません。寅彦の弟子たちは、寅彦が生前このような言葉をしばしば口にしていたので、この言葉も寅彦の随筆の中に書かれていたと思い込んでいたようです。

さて、今日は3月11日です。このほか1月17日、9月1日という日付に共通する出来事が何かわかりますか？ いずれも大規模な地震が発生した日です。今年の元日には能登半島地震が起き、大きな被害をもたらしました。地震発生から2ヶ月以上が過ぎ、がれきの撤去や断水の解消といった復旧に向けた動きや、仮設住宅の建設も進み始めていますが、今も多くの人たちが避難所生活を余儀なくされています。被災地の一日も早い復興を願っています。

2011(平成23)年3月11日は東日本大震災が発生した日です。生徒のみなさんは、リアルタイムでの記憶はあまりないかもしれませんが、私はテレビで映像が流れた時の衝撃を今でも覚えています。沿岸部の街を津波が襲い全てを押し流していく様子や、福島第一原子力発電所におけるメルトダウン発生は、日本国内のみならず全世界に大きな衝撃を与えました。昨年の夏、震災遺構として保存されている宮城県の仙台市立荒浜小学校の見学に行きました。津波が2階まで押し寄せた校舎の被害状況や被災直後の様子を伝える写真や映像などから、津波の脅威を知ることができます。

1995(平成7)年1月17日は阪神・淡路大震災が発生した日です。特に震源に近い神戸市の市街地の被害は甚大で、建物や高速道路が倒壊、各地で火災が発生、まるで爆撃でも受けたかのような惨状でした。阪神・淡路大震災では、「過去にない多くのボランティアが駆け付けた」「学生や社会人等それまでボランティアの経験がなかった人が多数参加した」「ボランティアが行政を補完する重要な役割を果たした」ことから、1995年は「ボランティア元年」と呼ばれています。

1923(大正12)年9月1日は関東大震災が発生した日です。地震の発生時刻(11:58)が昼食の時間帯と重なったことから、火災による被害が拡大しました。死者・行方不明者が10万人を超える被害で、明治以降の日本の地震としては最大規模の被害です。また、震災の混乱の中、デマによる朝鮮人虐殺事件や、労働運動家を殺害した亀戸事件、社会主義者を殺害した甘粕事件なども起こりました。天災が人災をもたらした負の歴史として記憶にとどめておく必要があります。ちなみに、寅彦自身も関東大震災に被災しており、その後、焼け跡を回り、地震被害の調査を行っています。現在、9月1日は「防災の日」と定められています。

(次に続く)

現在放映中のTBSテレビドラマ『不適切にもほどがある!』は、宮藤官九郎さんの脚本によるオリジナルドラマです。コンプライアンスが厳しい令和(2024年)とそうではなかった昭和(1986年)を舞台とするタイムスリップものであることから、令和における不適切な表現についての注意を喚起する注釈テロップが1話につき何度も挿入されたり、毎回終盤にミュージカルシーンが挿入されたりと、いかにもクドカンさんらしい脚本です。昭和と令和のギャップを楽しむタイムトラベル・コメディと思って観ていたら、いきなり物語の中に阪神・淡路大震災が登場してきました。思い返してみれば、クドカンさんは、2013年のNHKの連続テレビ小説『あまちゃん』で東日本大震災を、2019年のNHK大河ドラマ『いだてん〜東京オリムピック噺〜』で関東大震災を物語に織り込んでいました。2022年に公開された新海誠監督のアニメーション映画『すずめの戸締まり』も、東日本大震災を真正面から取り上げていました。エンタメ作品で震災を扱うことには、作者自身の葛藤や迷い、一部からの批判の声をあつたかと思えます。それでも、自身の作品の中で震災を取り上げることで、そこに作者自身の強いメッセージが込められています。特に、宮城県出身のクドカンさんにとっては、強い思い入れがあるのだらうと思えます。

ところで、鴨長明(1155~1216)の随筆『方丈記』をご存じですか。「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず」で始まる有名な作品です。長明が生きた時代は、平氏政権が倒れ、鎌倉幕府が成立するという激動の時代でした。また、この当時の京都では大火事(安元の大火 1177)、竜巻(治承の辻風 1180)、飢饉(養和の飢饉 1181)、大地震(元暦の大地震 1185)が相次いで発生し、長明はその様子を『方丈記』の中で克明に描いています。日本文学史上の代表的な随筆作品であると同時に、最初の災害作品(?)と言えるのではないのでしょうか。長明は、元暦の大地震の様子を「山はくづれて、河をうづみ、海はかたぶきて、陸地をひたせり。土裂けて、水湧きいで、いはほ割れて、谷にまろびいる。」と描いています。「山はくづれて、河をうづみ」とは大規模土砂災害の状況を、「海はかたぶきて、陸地をひたせり」とは津波の被害を表しているのでしょうか。この大地震の約3ヶ月前に、平家一門は壇ノ浦の戦いで滅亡。当時の都人の間では、この地震は平家一門のたたりによるという噂も流れたようです。

「天災は忘れた頃にやってくる」—— 日頃から防災意識を高めておくことが大切です。

【つぬさんぽ】

昨日(3月10日)の「つぬさんぽ」には、たくさんの生徒諸君が参加しました。地域の皆様を中心に多くの方に足を運んでもらいました。事前の準備、当日の運営、上手くいったこともあれば、失敗したこともあったことでしょう。それもまた大きな学びの場、成長の機会となります。ぜひ今回の取組を各自で、またはチームで振り返ってください。

【探究学習発表会】

3月15日(金)は、2年生が今年度実施した「総合的な探究の時間」の取組を発表します。発表する2年生は、各自が考えをまとめて人前で発表する経験を積み、3年次の進路実現に役立てたいですし、1年生は、先輩のプレゼンを見て、来年度の自分の姿を想像してください。そして、ぜひ積極的に質問もして欲しいです。保護者の皆様も聴講可能ですので、お時間が許せば、ぜひ生徒たちの発表を聴いてください。